



共翔

第24号



●..... 目次●

【巻頭言】「私の夢は本を読むことから始まった」 片岡洋行……………2

【研究ノート】「図書館たんけん隊・テキサス編」 山田美穂……………4

【図書館活動報告】……………6

【学生協働】

- ・シンポジウム参加報告 垣内智美……………8
- ・図書館セミナー報告 小野太地……………10
- ・ブックハンティング報告 武田万由……………12

【ブックガイド】……………14

【ユーズーズガイド】

- ・My Library機能について……………16
- ・文庫の探し方……………17
- ・e-Book活用講座……………18

【利用者へのメッセージ】……………20



※「吾輩は猫である」の企画で学生さんから寄せられた猫ちゃんたちです。

巻頭言

「私の夢は
本を読むことから始まった」

就実大学・就実短期大学 学長
片岡 洋行

私は、小さい頃、将来大学教授になるとは思ってもみなかった。昭和30年代にはコンピュータゲームなどもなかったので、自然の中で自然の道具を使って遊んでいた。川や田畑に入って魚釣りや昆虫採集をしたりして、ハンミョウという七色の虫を追っかけまわしていた。また、近くの野山へ登ってきれいな石ころを集めて、メノウや水晶のかげらを見つけたときの感動は今でも覚えている。読書はあまり好きではなかったが、ファール昆虫記、エジソン、野口英世やシュヴァイツァーなど伝記だけはたくさん読んだ。偉人の生き方を読むことで、自分もそのような人になりたいと思った。特に、アフリカで医療活動を行い「密林の聖者」と呼ばれたシュヴァイツァーの生き方に感動した。当時の長崎は原爆の爪あとが家の周りにたくさん残っていて、瓦礫の中から放射線を浴びて溶けて変形した化粧瓶などを見つけては宝物としていた。私の両親は浦上で被爆したが、近所にもやけどの跡が残っている人がたくさんいて、原爆が落ちたときのことをよく聞かされていた。原爆の恐ろしさや命の大切さを身にしみて感じていた。これらの小さい頃の環境や経験が、漠然とした形で医者になりた

いという大きな夢を持つきっかけになった。

しかし、大学受験の時に、自分の能力を考えると大きな夢も崩れてしまった。今から考えると、もう少し頑張っていればよかったという後悔の念もある。とりわけ化学が得意というわけでもなかったが、中学校の時友達の家で化学実験をしていたことが薬学部へ進むきっかけとなった。ガラス器具や試薬類を薬品会社から入手して火薬を作ったり、水ガラスの中で金属塩の結晶が成長していくの見て、新しいものを創ることに感動し、科学者になる夢も少しずつ抱いていた。長崎大学薬学部へ入ってからは、研究者になるという明確な夢や目標があったので、とにかく一生懸命勉強し、大阪大学大学院へ進んだ。その先はどうするかは不確定だったが、運よく阪大の恩師の推薦で岡山大学薬学部助手となり、教育研究に携わることになった。その後、運よく就実大学薬学部教授になることができ、小さい頃の大きな夢は次第に現実的な夢に変わって行った。これが自分の本当の夢だったのかどうかかわからないが、多くの人との出会いや自分なりの努力で好きなことをやってきた。

さて、夢は何かやりたいと思うこと、

目先のことでいいから何か目標を持つことである。この小さな夢の積み重ねが大きな夢に膨らんでいく。小さな夢も諦めずに突き進んでいけば、次から次に夢が現れ、連鎖的に大きな夢に繋がっていく。私は、薬学部助手になってからは、いつ頃までに、博士号をとって、留学をして、・・・と近い将来の目標を立てた。なかなか計画通りにはいかなかったが、いつでもチャンスをつかむために努力を惜しまなかった。留学をするために、多くの大学へ手紙を書いた。唯一、私をポスドクとして雇ってくれたのがカナダ Waterloo 大学の Janusz Pawliszyn 教授で、そこでの研究が私のライフワークとなった。そして、21世紀になるまでに論文を100編書くぞという目標は達成でき、次の目標に向っている。しかし、最近は、毎日目覚ましより早く起きて、朝食を簡単に済ませて出勤、授業をして論文を書いて、長い会議に出て、締め切りに追われながら原稿や事務書類をまとめ、メールの山を斜めに読んで、・・・と代わり映えのしない一日を過ごしている。何かをやりたくても考える時間がない。現実を追われていると、夢から遠ざかっていくような気がする。しかし、学会で友人にあって、いろんな研究発表を聴いたり、討論をしたり、雑誌のおもしろい論文を読むと大きな刺激になる。あんなこともこんなこともできるのではないかといろいろとアイデアが浮かんできて、すぐに試してみたくなる。「夢を抱けば心が若返る」と言いうが、何かを考えて計画しているときは、わくわくとした幸福感に包まれ、生き生きとしている。退職したら何をしようか、世界一周旅行をして写真を撮ってみたい、ピアノが弾けるようになって作詞作曲をしてみたい、・・・ボケになる前に何かやらなければと寝床で考えている。夢を持つことに年齢制限はないが、今の自分にとっては、夢を実現するための時

間を積極的に作ろうとすることから始める必要があるようだ。

私の研究室では、毎年「卒業記念誌」を作って、卒業生に配布している。上記の文章は卒業生への贈る言葉として、数年前「夢」について書いたものである。私の半世紀を振り返ってみたが、いろんな人や本に出会い、見たり、聞いたり、感じて、自分なりの信念というか生き方を試行錯誤しながら、歩んできたように思う。その時々、書物や人生の先輩から受けた「ことば」は、強い印象とともに、感動を覚え、心を揺り動かされ、私自身の進路に大きく影響したことは間違いない。私たちは、ことばの洪水の中で生きており、そのほとんどは右から左へ聞き捨てられ、忘れられていき、心の中に残るのはごくわずかである。教育者は、そのような人の心に残る「ことば」や「教え」を持って、学生に行動を起こさせ、育てていくのが務めだと思う。最近、インターネットが普及し、何でもスマホで済ましてしまうことが多くなっているが、読書は様々な効果がある。例えば、語彙力がアップする、文章力が身に付く、想像力が高まる、話題が豊富になる、考え方が変わるなど、良いことばかりである。私は、小さい時に読んだ本から夢を追いかけるようになったが、本を読むことで視野が広がり、自然科学に興味を持つことができた。私の場合、伝記という人の生き方を書いたものだったが、皆さんも、たくさん本を読んで、人生を左右するような本や「ことば」に出会い、夢の実現に向けて歩んでください。

最後に、敬愛するシュヴァイツァーの名言を贈ります。

「成功は幸せの鍵ではありません。幸せが成功の鍵です。もし自分のしていることが大好きなら、あなたは成功しているのです。」

テキサス編

図書館たんけん隊

山田 美穂



2016年8月より、テキサス大学オースティン校で在外研究を行っています。広大なキャンパスには総合図書館のほかに15の箇所もの専門図書館が点在しています。まだほんの一部をおそるおそる訪れただけですが、そして知らなかったことが多すぎて恥ずかしくもあります。未知の場所での異文化体験の記録としてお読みいただければと思います。

タイトルは、毎年就実大学図書館スタッフの皆さんが企画してくださっている「図書館たんけん隊」に敬意と感謝を表したく、勝手に「テキサス編」としました。

8月0日 テキサスに着いて1週間。初めて総合図書館に行ってみる。正式名称はPerry-Castañeda Library、略称PCL。正面入口のゲートの前に小さなカフェがある。1階はカウンター、PC・プリンタコーナー、スタディールーム。2～6階が書架と閲覧室。広すぎて全部を見て回れなかった。専門図書館にもいつか行ってみよう。

9月△日 総合図書館入口のカフェは、就実図書館のブレイクコーナーのように、飲食をしたいときはここでどうぞ、という場所なのかと思っていた。でもみんなコーヒーを片手にどンドン図書館の中へ入っていく。えっ、いいの？と思って見ていると、コーヒーどころかテイクアウトしたランチや、中には大きなビザの入った平たいボックスをいくつも重ねて

入っていく人たちもいる。なんと、飲食自由、しかも何を食べてもいいんだ(注1)!

9月×日 オンラインでの文献検索があまりにも簡単でびっくりする。図書館のトップページの検索窓にキーワードを入れるだけですぐにヒットする。そしてテキサス大学のWi-Fiに接続できれば誰でも、教職員・学生なら自宅からでも、論文が無料でダウンロードできるようになっていて夢のよう。私の研究領域のダンスセラピーは、本場のアメリカでさえとてもマイナーなので、さすがに論文ダウンロードまでは無理かと思っていたら、あっさりできてしまった。感動。

10月0日 居心地のいい総合図書館への唯一の不満…それは冷房が効きすぎていること。やっと少し秋らしくなってきたこの頃でも、容赦ないほど冷やしている。カーディガンやストールを巻き付けても冷えていく私の横で、若い学生さんたちは真夏と同じTシャツ短パン姿で、テキサスサイズ(注2)のアイスコーヒーを飲んでいる。信じられないけれど彼らには私の寒さが信じられないだろう。ひとの多様性ということ、身をもって感じた。

11月△日 教育心理学科の森宏樹先生より、「共翔」執筆の依頼の連絡をいただく。せっかくの機会なので、行こうと思いながらなかなか機会のなかった専門図書館に行ってみよう

思い立つ。森先生が以前研究しておられたフロリダ大学の図書館は、24時間オープンで、学生個人の机もあったとのこと。そこまではないです！すごいですね！と驚く。

11月×日 学部生のAさんと話す機会があったので、日頃どんなふうにご利用しているか教えてもらった。授業などで必要な文献はだいたいオンラインで手に入るの、文献を探しに行くことはあまりないので、週に3回程度は授業の課題をするために行くそう。徹夜して朝までいたこともあるらしい。そう、テキサス大学も総合図書館は24時間オープンだと初めて知る。森先生すみません、勘違いでした。また、専門図書館ならArchitecture and Planning Library (建築学図書館) がおすすめだと教えてくれた。親切な人だ。

12月〇日 Aさんにすすめてもらった建築学図書館に行ってみる。100年以上前に建てられた、歴史ある美しい棟の中にあり、入り口を入ると目の前に大きなクリスマスツリーが飾られ、ゆったりしたソファが置かれて、クラシカルなホテルのラウンジかどこかのよう。文献資料が保管されているというだけでなく、建物のつくりや空間の雰囲気も含めて、建築の素晴らしさを伝えるような、建築学という学問を体現しているような場所だと感じた。ちょうどこの日は期末試験週間の前日で、たくさんの学生が勉強中。そして試験ストレス対策コーナーも設置されていた。工作、塗り絵、ジグソーパズル、セルフケアやカウンセリングなどの情報コーナー。やはりアメリカの大学、単位を取得するのは容易なことではないらしい。

12月△日 総合図書館へ。スタディールームではセラピードッグのイベント開催中。これも試験のストレスを癒そうという趣旨。2頭のセラピードッグとスタッフの方を囲んだ10人くらいの学生、みんな笑顔になっていた。建築学図書館の試験ストレス対

策コーナーと同じく、実際に利用する人はほんの一部であっても、図書館という場でこういう取り組みをしていることは、多くの学生の目に入るし、そのこと自体が「ストレスを感じるのをおかしなことではなく、対処することもできる」というメッセージとしてじわじわと浸透している部分、見えないところで学生を支えている部分はきっとあるだろう、その効果は数値としては表れず、目には見えにくくても、とても大事な取り組みなのではないか…などと考えながら2階に上がると、書架の隙間に人が倒れている！勉強しすぎか！？とびっくりしてよく見ると、ごろんと床に寝っ転がって勉強している学生だった。自由だなあ…

12月×日 初めて芸術学部の棟に入り、Fine Arts Library (芸術学図書館) へ。館内に入ってすぐのところに大きなモニターがあり、コンテンポラリーダンスの映像を流している。あちこちに様々な絵、現代アートの作品、南米の伝統工芸品などの実物が置いてあり、美術館のようで楽しい。音楽に関する資料も豊富で、たくさんの楽譜が書架に並んでいる中に、「下津井音頭」が載った「日本民謡全集」を発見。同郷の大先輩に会ったような、「いつからこちらへ？ご苦労様です」と言いたい気持ちになる。そしてこの図書館で学生個人の机(注3)を発見。森先生！個人の机もありました！（図書館たんけん隊テキサス編、前半終了です。）

注1 専門図書館の場合はルールが違う。たとえば建築学図書館は飲食物持ち込み禁止。

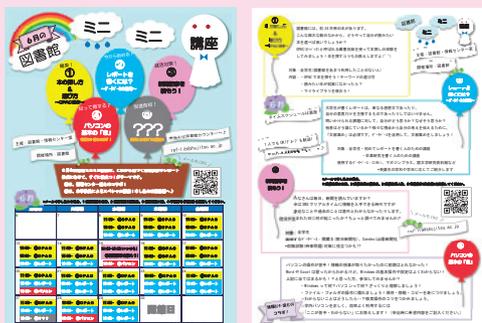
注2 巨大なサイズのこと。テキサス州の面積が大きいことと、テキサスの人がアメリカの中でも特にビッグサイズを好むことという二つの理由から。

注3 大学院生が一定期間借りられる。博士論文執筆中の場合は個室を借りることも可能。

図書館活動報告

4月

新入生対象図書館ガイダンス(学生協働)
ゼミ生対象図書館利用案内(～6月)
図書館ミニミニ講座を開設
リユース本譲渡会



6月

ブックハンティング(学生協働)
→学生体験記 p.12～13

スペシャル講座
「資料検索タイムショック!!」
(講師: 苅米一志先生)
「パソコン基本の“き”」
(講師: 情報センター室職員)

7月

企画「図書館で願い事(七夕)」
スペシャル講座
「日本古代仏教研究の最前線」
(講師: 曾根正人先生)
「本気で司書を目指す人のための採用試験対策! 夏期講習!」
(講師: 松崎博子先生)
「データベース講習会」
(講師: 学外業者)
「情報セキュリティ」
(講師: 情報センター室職員)

9月

「大学図書館学生協働交流
シンポジウム」に参加
(学生協働)
→学生体験記 p.8～9



10月

リユース本譲渡会
図書館セミナー(学生協働)
→学生体験記 p.10～11

図書館イメージキャラクター「ライブくん」のお友だち募集



11月



ブックハンティング (学生協働)

→学生体験記 p.12 ~ 13

企画展：夏目漱石没後 100 年記念
スペシャル講座

『吾輩は猫である』～誕生秘話～ (講師：松尾直昭先生)

あなたの猫ちゃんの写真募集中!

あなたの家族の猫ちゃんや近所にいる猫ちゃんなど
お気に入りの猫ちゃんの写真を募集しています。
写真は図書館カウンターで受け付けています。
持って来ていただいた写真は図書館で掲示します。

応募したい方！

こちらの QR コードからメールを
受け付けています！

夏目漱石没後 100 年 記念特集
『吾輩は猫である』～創作秘話～
松尾直昭教授 (上野中央大学名誉教授)

日時 2016年11月28日(月) 18:30より | 1時間授業
場所 図書館スタイルーム(定員 15 名) | 日本語のみ

大正科学館 夏目漱石資料館(松尾直昭先生)による、特別講演を録音して紹介します。
『吾輩は猫である』の創作秘話について、書評(松尾直昭) | 掲載予定!!
詳細は以下のURLをご覧ください。カウンターでは<http://www.library.kaiyodai.ac.jp>



12月

スペシャル講座 「絵本翻訳の世界」 (講師：武部好子先生)

企画 図書館謎解きゲーム「彼女からの挑戦状」
(学生協働)



図書館 図書館サポーター
はしもとまゆみ

図書館で
★☆☆☆☆
楽しもう♪

「絵本翻訳の世界」

日時: 2016年2月15日(金) 16:30-17:30
会場: 図書館 2F カウンター
講師: 武部好子先生 (上野中央大学、NHK-BS1)
定員: 15名 | 日本語のみ | 無料
申込: 図書館 | 11月28日(月) | 18:30

1月
マナー up 月間

2月
一般雑誌譲渡会

図書館では、平成26年度より、学生協働(※)に積極的に取り組んでいます。3年目となる今年度は、学生有志のボランティアグループ「図書館サポーター」と一緒にシンポジウムに参加したり、図書館セミナーに関する事前のフィールドワークを行ったりと、まさに学生とともに学ぶ1年になりました。来年度も、学生と一緒に図書館の運営をしていきたいと思っています。

(※)図書館業務の一端を、職員とともに、利用者でもある学生が担う活動。学生の主体的な学びへのきっかけになることと同時に、利用者である学生の視点から図書館の業務やサービスの改善につながることを期待しています。



シンポジウム参加報告

第6回大学図書館学生協働交流シンポジウム (中国四国地区大学図書館協議会主催)

考えよう！大学図書館学生協働の未来

去る9月15・16日の2日間、香川大学で「大学図書館学生協働交流シンポジウム」が開催されました。本学図書館サポーターの中から、有志の学生4人が参加しました。全国各地から30を超える大学、そして150人近くの参加者がおり、多くの学生・教職員と学生協働について考え、語り合い、親交を深めました。以下はサポーターの体験報告です。ご覧ください！

1日：9月15日 木

9:15 岡山駅集合
快速マリンライナーで高松駅へ



10:30 高松駅到着
昼食はやっぱりさぬきうどん！



12:30 香川大学に到着！
全国各地から30を超える大学、そして150人近くの参加者がいました。

13:10 講演「エンターテインメントの現場から学ぶ学生協働経営論」
講師：森下信雄氏 (北摂演出研究所代表・元宝塚総支配人)

宝塚を例にエンターテインメントの視点から図書館の活性化に必要なものは何かということをお話されました。森下先生によると、宝塚ではコミュニティが必要であり、これを図書館の活性化に利用できるのではないかと参加者に問いかけていました。

15:20 ポスターセッション「大学図書館学生協働活動報告2016」

岡山県から来ました！



ドキドキ...

発表中!!

！❤️就実Tシャツが目立っています！



他大学のお話をたくさん聞きました!!



貸出袋と文庫カバーを持って行きました

事前に作成したポスターを使ってプレゼンテーションをしました。多くの大学が参加していたこともあり緊張しましたが、就実図書館の活動を伝えることができました。他の大学の発表も魅力的で、参考にしたい点も多く見つかりました。これからの就実図書館の活動にも取り入れていきたいです。

他の大学のポスター



参考にしたいアイデアがたくさんありました!

シンポジウム参加報告



18:00
交流会



色々な人と
交流できました!!



カンパニー!!

／他の大学の学生や職員のかたと
名刺交換もしました



ごはん
美味しかった!!



20:30 ホテル着

明日も頑張るぞー zzz..

2日目：9月16日 金

8:30 高松駅集合
バスで香川大学へ



9:30 ワークショップ
「キキチキ! 第1回学生協働企画・プレゼンバトル2016」

それぞれグループに分かれて、40分間で即席の企画案を作りました!!
グループは参加者全員がランダムに分けられます。
企画案は「企画名称」「趣旨」「内容」「広報手段」を踏まえて検討します。
その後、各グループ3分ずつのプレゼンテーション大会です!!

40分間で企画案を
作るのは意外と
大変でした!



／全員バラバラのグループに分かれます

プレゼン頑張りました!!

11:45 閉会、岡山へ



参加メンバー
垣内智美(初等3年)・小野大地(表現2年)
早川あさ美(歴史1年)・中山唯(歴史1年)
原田泰江・岸本京子(図書館職員)

リーダー：垣内智美さん(初等教育学科3年)の感想

私は都合により1日目の参加になりましたが、それまでのポスター作成やプレゼンの練習などを通して、図書館サポーターの役割について改めて考えることができました。また、他大学図書館での様々な取り組みについてお話を聞き、自分達も学習サポートやスタンプラリーのような皆が楽しめる催し物を取り入れ、より就実大学図書館の活性化に繋げていければ良いと思いました。今回学んだことをこれからの図書館サポーターの活動に生かしていきたいです。

図書館より

このシンポジウムは毎年開催されていますが、本学が学生を引率して参加したのは今回が初めてでした。参加した4人の学生には、全体を統括する「リーダー」、リーダーを補佐し記録を取る「副リーダー」、宿泊先や現地までの交通手段を決める「班長」、班長を補佐し連絡係となる「副班長」の役をそれぞれに与え、1人1人が主体的に考えて行動する機会にしたいと考えました。準備から当日までの1ヶ月半、ポスターの作成からプレゼンの練習、「旅のしおり」の作成まで...各々の役割をきちんと果たし、4人で協力しながら進めてくれました。

シンポジウムの会場では、堂々とプレゼンテーションを行い、自ら積極的に他大学の学生に声をかける姿はとても頼もしく感じました。この経験をもとに、図書館をもっと盛り上げてくれることを期待しています。



図書館セミナー報告

第7回の図書館セミナーへの道程は、非常に困難で充実したものでした。「城のつくり方図典」(小学館)でお馴染みの、著名な日本の建築学者でもある三浦先生を、講師としてお迎えすることは、かなり以前より決定しており、セミナー企画の滑り出しは好調でした。

しかしながら、セミナーの打合せ段階になり、三浦先生が著名な故の日々の多忙に加え、熊本地震による「熊本城」の修復作業に奔走され、なかなかセミナーの概要が決まらず、進捗状態が停滞してしまいました。まして、昨年度より始めた学生協働を、このセミナーの中へどう活かしていくか暗雲たる思いでした。

最初にしたことは、図書館サポーターと図書館員で、黒い下見板張りの烏城と呼ばれる「岡山城」の書籍・文献収集をすることから始めました。本学に所蔵しております「岡山城」について書かれている書籍を引っ張り出して来たり、本学の総合歴史学科の苅米教授より、読むべき論文を紹介して頂いたりして、史料収集に勤しみました。

次に、図書館セミナーの講演に添って、3つの視点から、図書館セミナーの特別展示を組む企画を考えました。1つ目は、この地に岡山城を築いた「宇喜多直家」たる人物像とこの場所を選んだ理由。2つ目は、豊臣時代から江戸時代までの「天守・櫓・石垣」の建築様式の変遷。3つ目は、宇喜多直家(1573年)から、小早川秀家、池田家という城主の人物像と「岡山城」への政策。これら3つの視点をまとめあげた成果物として、2階のブレイクコーナーに展示しました。特に史料から想像できる城主の人物像を、学生にイラストにしてもらいました。その出来栄は、各城主の特徴を捉え、感嘆するものでした。



こうして「岡山城」について、学生とともに、無知ながら、安土城・大阪城の影響を受けた天守閣、豊臣時代から江戸時代への石垣の様式、櫓の数々の建築物、「岡山城」の城主たちに触れ、「岡山城」を身近なものとしていきました。

これらの知識を得た後、最後の仕上げに、総合歴史学科の吉本教授のご厚意も加わり、去る10月15日(土)に「岡山城の

フィールドワークを実施しました。このフィールドワークは、リアルに歴史的建造物に触れる、とても良い機会になりました。



五重六階の古式な望楼型天守閣より東西南北を眺めた際に、まさに、豊臣秀吉の寵愛を受けた宇喜多秀家が、天守閣から城下を眺めている瞬間を体験している気分を味わったのは、私だけでしょうか。また、石垣においては、宇喜多家時代の加工されていない自然石を積んだ勾配の緩い石垣、池田家時代の加工形成された算木積の石垣の時代の流れを目の当たりにしました。唯一現存している、池田忠雄が建てた国指定重要文化財の月見櫓では、内側は、優美な居住性の高いもの、外側からの装いは、軍備を凝らしたもので、和戦両様造の格調の高い櫓と見て取れました。



当日、10月29日(土)の13時から、図書館AVホールにて、広島大学大学院教授三浦正幸氏による第7回図書館セミナーが開催されました。著名先生の講演とあつて96名の参加者に恵まれ、とても面白く充実した図書館セミナーでした。



三浦先生は、「天守・櫓・石垣」の点から岡山城を見た場合、宇喜多家による近世城郭の完成度の高さ、小早川秀秋による城域の拡大、池田家による外堀の整備、石垣・月見櫓の格調の高さなどを講演されました。とても分かり易く、岡山

図書館セミナー報告



空襲による天守(昭和41年再建)・多数の櫓など焼失さえなければ、日本の名城として、「岡山城」は広められのではないかと、岡山県人としての誇りをくすぐられた、終始心地の良い雰囲気を保った講演でした。

第7回の図書館セミナーを通して、当日の素晴らしい講演を拝聴するだけでなく、セミナーを開催する過程において、事前学習、フィールドワークを実施することにより、史料に触れ、史料に基づいて実際に遺構を調査することにより、身近に感じる素晴らしさを、身を持って体験できたセミナーでした。

[図書館事務室 原田泰江]



図書館セミナーの発表者になってみたいかとお誘いを受けたのが夏休みの終わり頃でした。図書館セミナーの開催日が一ヶ月後ということでしたのできちんと発表ができるかという不安がありました。夏休みに同じく図書館サポーターの活動であった他大学の図書館サポーターの方々と交流会を通して何かを伝える経験の大切さを学び、この図書館セミナーも更に成長できるチャンスと思い参加させていただきました。また今年の図書館セミナーのテーマが岡山城についてで、僕自身岡山に住んでいるにもかかわらずあまり岡山城についての知識がなかったので、改めて知ることができる良い機会にすることができました。

図書館セミナーの最初の準備は、就実大学図書館に所蔵している岡山城に関連する本を探すことでした。やはり岡山城のテーマ一つでも数種類の本があり、どれから読み始めるか迷いました。多くの本を目の前にして全国にはたくさんの城がありますが、岡山城がその中でも有名な城だと実感できました。

次に岡山城のくくりの中で主題を決めるため、自分の興味のあるものをいくつか考え絞っていきました。僕が中でも一番興味を持ったのが櫓でした。敵兵から城を守るために設置されている櫓は、写真で見ただけでもかっこよく、当時どのように使われているのか気になったからです。

図書館セミナーの少し前に図書館サポーターと教職員の方の数名で岡山城フィールドワークに行きました。何回か岡山城に行ったことはありますが、フィール



ドワークとしていって見ると新鮮に感じることができました。僕は櫓について調べていたので岡山城にある月見櫓を見に行きました。月見櫓自体は写真で見ただけより小さく感じましたが、櫓にある銃眼は思っていたより大きく見えました。月見櫓は和戦両様の造りをしているので、少しやわらかな印象の外観をしています。造りでいうと最も面白いことは、城の外側から見ると二層の望楼型で内側から見ると三層の層塔型に見えるところです。自分の目で見てみてもやはり階層が違って見えて、本に書いていることを今体験しているんだと嬉しくなりました。本で学んだことを目で見て確認してみると、想像以上だったりそれ以下だったりしました。文字や写真を読んだり見たりするだけでは限界があるということです。それを知ることができたのが、フィールドワークに行ったら良かった点です。



フィールドワークから帰り、確認したことをまとめて発表準備の仕上げに取りかかりました。多くの人に対して発表するので、区切りよく伝えたいことはわかりやすくするように心がけました。家でも何度か声に出して、たどたどしくならないように練習をしました。

そして、図書館セミナー当日が来ました。発表まで時間がありましたが、緊張していたこともあり、あっという間に僕の番が来たのを覚えています。ですが、一旦来場された方々の前へ出ると緊張も吹っ飛びました。僕自身あまり良い出来ではなかったかなと思いましたが、後で職員の方に褒めて頂いてすごく嬉しかったです。また、こういう機会があったら参加してみたいと思います。

[表現文化学科2年 小野太地]



ブックハンティング

第3回

ブックハンティング報告

『ブックハンティング』は、平成26年より始まり、今年度も夏と秋の2回開催しました。3年目と言うこともあり、参加する学生にはリピーターも増えてきました。リピーターの中には、事前に購入したい本を決め、図書館の所蔵を確認してから参加する学生もいました。図書館業務の一つでもある重複調査を、学生自らが行っていることに感心しました。

初めて参加した学生からは、ブックハンティングについて、「もっと早くに知りたかった。」「来年も参加したいです。」という声をいただきました。また、自分が選書した本が、図書館で購入され書架へ並ぶということを楽しんでいました。

今までの参加者は、一部の学科に偏っていましたが、今年度は、図書館サポーターによる広報活動のお陰で、今までに参加が無かった学科の学生も加わり、選書された本の分野が広がりました。

選書された本は、学生自身が作成したPOPとともに展示を行います。学生が試行錯誤して作ったPOPを利用者が読み、貸し出される光景は、参加した学生の充実感につながっています。こうしたブックハンティングの魅力を、より多くの学生に知ってもらうように、図書館として働きかけていきたいと思えます。

どうぞ皆さんご参加ください。

平成28年度ブックハンティングで、夏の開催では62冊、秋の開催では50冊。合計112冊の図書を学生が選書しました。

これまでに選書された図書は、一覧表にてホームページへ掲載しています。



夏

【1回目】実施日：6月4日(土)

場 所：紀伊國屋書店 クレド岡山店
参加者：学生6名+教職員2名

【2回目】実施日：6月18日(土)

場 所：丸善 岡山シンフォニービル店
参加者：学生4名+教職員6名

秋

【1回目】実施日：11月12日(土)

場 所：紀伊國屋書店 クレド岡山店
参加者：学生4名+教職員3名

【2回目】実施日：11月18日(土)

場 所：丸善 岡山シンフォニービル店
参加者：学生5名+職員3名

ブックハンティングとは？

書店で好きな本を選べるイベントです。選書額の範囲なら何冊でも選ぶことができ、選んだ本は図書館の書架に並び、優先的に貸出ができます。これは、学生協働(図書館業務の一端を、職員とともに、利用者でもある学生が担う活動)の一環で、学生の主体的な学びへのきっかけとなることを期待しています。

ブックハンティングの流れ

【学生】書店にて選書→【図書館】重複等をチェックして本を購入→【図書館】受入・目録・分類等登録作業→【学生】POPを作成→貸出開始・新着図書コーナーへ一定期間展示



ブックハンティング



ブックハンティング体験記

表現文化学科 武田 万由

私は、はじめてブックハンティングの内容を聞いたとき、そんな素敵なイベントがあって良いのかと、とても驚きました。ブックハンティングとは、書店に集まり、そこで自分の好きな本を選べるというイベントです。選ばれた本は重複等をチェックし購入され、その後図書館に排架されます。

私は当日まで、何の本にするか、どのようなジャンルの本にするかということすらも、全く決めていませんでした。何の本でも良いと言っても図書館に置くのだから、きちんと卒業研究や講義に役立つような本、みんなが求めていそうな難しい本を選ばなくてはいけないのではと考えていたのです。しかし、実際は本当に自由に、私は猫の写真集を選書しました。止められるかと思いましたが、職員さんも快く承諾してくださり、改めてこのイベントの醍醐味を味わいました。探し始めると、自分が普段立ち寄らないようなコーナーに入ったり、本を読んでみ

たりすることにより、気になるものがどんどん増えていきます。書店をすみずみまで回ることによって様々な本に触れ、自分自身についても新たな発見をすることができました。

選んだ本は優先的に、また長期に渡り貸出できるので、以前から気になっていた、気になるけど高くてなかなか手を出せない、そのような本がある人には本当におすすめです。そして特に欲しい本、気になる本がないという人も、このブックハンティングに参加すると、必ずなにか新しい本と出会うことが出来ます。そのような機会をこのイベントは与えてくれるのです。たくさんの人が参加することで、今まで以上に自分の読書の幅が広がり、新たな本に出会う楽しさを知ることが出来ると思います。このような経験はなかなかできないことではないでしょうか。知らないなんてもったいない。是非、参加してみてください。



原田マハ『楽園のカンヴァス』(新潮文庫)



アンリ・ルソー「夢」
熱帯植物が生い茂る
密林で横たわる裸身の
女。彼女は何を思い、
何を指差しているの
か。

ルソーの研究者であ
る織絵とティムのもと
に、伝説のコレクター
であるバイラー氏から

ある絵画の調査依頼が来た。それは、ルソーの大作「夢」と酷似している「夢をみた」という絵画の真贋判定だった。勝者にはその絵の取り扱い権利が譲渡される。調査方法は、7日間毎日1章ずつある物語を読むこと。徐々に紐解かれていく「夢をみた」の真実。ルソーを尊敬するピカソの貴重な初期作品が「夢をみた」の下に隠されているかもしれないというのだ。ルソーではなく、その下のピカソを狙う陰謀からルソーの絵を守るために、物語はさらに動き出す。現在と過去の絵画への想いが絡み合う美術ミステリー作品。

(経営学科 佐藤あかり)

重松清『青い鳥』(新潮文庫)



内村先生は、中学の
非常勤講師。国語の先
生なのに、吃音症で言
葉がつかえて上手く
話せません。でも、つ
かえながらも自分の言
葉で生徒に一生懸命気
持ちは伝えます。この
本は、生徒の「ひとり
ぼっち」の心に寄り添

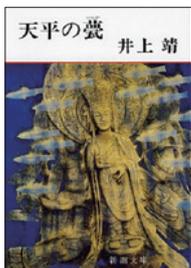
う内村先生が、本当に大切なことは何かを教
えてくれる本です。

この本を読んでいると、お風呂のぬるま湯
に浸かっている様な、暖かくて優しい気持ち
になります。私は内村先生の、不器用だけ
ど真っ直ぐな言葉がだいすきです。

重松清さんの本には「ひらがな・カナカナ・
読点」が多く、読みにくい印象があるかも知
れませんが、しかし、そこもこの本の魅力の一
つです。是非、じっくりと読んでみてください。
「青い鳥」は短編集なので、読みやすいと思
います。

(教育心理学科 柴田奈保美)

井上靖『天平の甕』(新潮文庫)



奈良時代、日本から
中国へ海を越えて渡
るのは死と隣り合わせで
あった。そうしたなか、
日本に戒律(僧の
守るべき法律)の先生
を求めるために立ち上
がった二人の僧侶が
いた。その僧侶の名前を
普照・栄叡という。こ

の小説は、二人を主人公にして描かれている。
そして、二人はあの有名な鑑真という先生を
見つけることになるが、彼らが日本へ渡るに
は幾多の困難が待ち受けていた。

本の題名からみると、とても難しそうに感
じるかもしれませんが、しかし、誰もが知る鑑
真の来日に関係したものであり、本の最後
には注釈が付いていて、歴史に興味がない方
にもおすすめです。

この本を読んで、古代史に興味をもっ
ただけなら、総合歴史学科生の1人として嬉
しいです。

(総合歴史学科 宮永溪太)

貴志祐介『青の炎』

(株式会社 KADOKAWA)



榎森秀一は、湘南の
高校に通う優等生。大
好きな母と妹と一緒に
幸せに暮らしていた。

しかしある日突然、
母が十年前に再婚し、
その後すぐに離婚した
男、曾根が家に居座る
ようになる。家のお金
に手をつけ、母や妹に

手を出そうとする曾根を、秀一は自らの手で
殺害しようと計画する。

この作品は蜷川幸雄監督により映画化もさ
れていますが、知らない人も多いのではない
でしょうか？

著者は「悪の教典」や「鍵のかかった部屋」
などで知られる貴志祐介さん。ホラーやミス
テリーの作品が多い貴志さんですが、この作
品はサスペンスで、17歳の犯人の目線で事
件を描いています。

どこか未熟だけど魅力的な主人公に、共感
することも多いと思います。

(表現文化学科 大島佳奈美)

ケリー・マクゴニガル著 神崎朗子訳
『スタンフォードの自分を変える教室』

(大和書房)



私たちは意志力が弱いです。

学校の課題を今回こそは早めに仕上げようと決意したのに、やる気がないからとズルズル後回ししてしまったり、ダイエットをしようと決意したのに翌日にケーキを食べてしまったりします。

この本の中で著者は意志力こそが学業はもちろん人生が成功できるかを決定すると主張します。

著者は意志力には3つの力、「やる力」(勉強、運動などやり遂げたい、やるべきことをやる力)「やらない力」(ついテレビを見てしまったり、頻繁すぎるスマホチェックの誘惑をやらない力)「望む力」(ダイエット成功、試験合格など本当に叶えたいことをやりとげる力)があると云います。

この本を読んでトレーニングを実行すれば、きつと鉄のような意志力が身につくでしょう。

(薬学科 水谷有美子)

森博嗣『スカイ・クロラ』(中央公論新社)



主人公となる函南優一(かななみ ゆういち)は欠員を補うために、新しく転属してきたエースパイロットである。転属して戦争を重ねる度、彼自身が思春期で成長が止まり、一生歳を取らずに生きることのできる

"キルドレ"という存在であることを知り、さらなる自由を求めて空を飛ぶ。

この作品は最初から最後まで謎が多く、シリーズ構成の長いお話ですが、とても読みがいのある本です。また、登場人物の現実と幻想が入り混じっているお話なので、読み進めるごとに情報の取捨選択が必要ですが、推理小説に似ているので、謎解きが好きなお方にはピッタリだと思います!

(実践英語学科 佐藤彩華)

辻村深月『ぼくのメジャースプーン』

(講談社文庫)



「ぼく」の通う小学校で起きた、陰惨な事件。それは、頭が良く、元気で皆から慕われて、でも少し変わっている「ぼく」の幼なじみ「ふみちゃん」の声を奪い、心を粉々に破壊した。「ぼく」は彼女のために犯人に対してある行動をする。「ぼく」にしか出来ないことだった。たった一度しかないチャンス。失敗は許されない。犯人と対面するまであと一週間。「ぼく」は「先生」と共に話し合いを重ね、とうとうその日が訪れた。

罪を犯した人間に対して、どうしたら効果的に罰せられるのだろうか、ということを考えさせられる本でした。また、「ぼく」の「ふみちゃん」のために起こす行動を読んだとき、とても切なくもあり、優しい気持ちにもなれました。「ぼく」が最終的に犯人に対してどう罰を下すのかを、ゆっくり一緒に考えながら読んでほしい一冊です。

(表現文化学科 永田しずか)

門井慶喜『おさがしの本は』

(光文社文庫)



舞台は図書館のレファレンス・カウンター。主人公である図書館司書の和久山隆彦は、利用者の依頼で本を探す「レファレンス業務」を主として行っています。しかし、利用者や行政への不満から無気力な日々を送っていました。そんな中、ちょっと変わったレファレンス依頼から本の魅力に改めて気づき、そして情熱を取り戻していく様子が描かれた連作短編集。

魅力は作中でたくさん出てくるちょっと変わったレファレンス依頼。謎解きのように一緒に考えるのがとても楽しいです。私が図書館司書を目指すキッカケとなった本でもあります。図書館と本がもっと好きになる、作者の図書館愛に溢れた物語です。

(生活実践科学科 大森 翼)

3. **ブックマーク一覧** をクリックして、**マイフォルダ**へ登録します。

ブックマーク一覧
元の画面 >> ブックマーク一覧
ブックマークした資料は検索を終了すると失われます。マイフォルダ登録を使い、これらを保存することができます。
全:2件

- クックパッドの夏レシピ：きゅうり、トマト、ピーマンetc.夏野菜が主役のおかずBEST100. 宝島社, 2015 (e-mook).

巻号	所在	請求記号	資料ID	資料種別	貸出区分	状況	備考
1	2F第1閲覧室	596.4/K	900190110	図書			
- クックパッドのひとりぶんごはん：おいしくて太らないレシピ. InRed編集部編. 宝島社, 2014.

巻号	所在	請求記号	資料ID	資料種別	貸出区分	状況	備考
1	2F第1閲覧室	596.4/K	002603583	図書			

すべてを選択 選択を解除 **資料に対する操作の選択** 実行
 ブックマークから削除
 マイフォルダへ登録
 ファイルに出力

チェックを入れたら → **マイフォルダへ登録**

4. **フォルダ**を選択して、**登録** します。

授業科目ごとにフォルダ
を作っても便利かも♪

フォルダの選択
登録する資料の数は2件です。

- 卒論 (件数:11件)
- 趣味 (件数:0件)**
- 文庫本 (件数:0件)

登録 中止 新規作成

文庫本を探して見よう！② ちくま学芸文庫編

“『ちくま学芸文庫』ってどこにありますか？”
という質問をよく聞きます。

★ **文庫を探そう！** ★
OPACで検索 → 所在に **2F文庫コーナー** と表示されたら
→ **巻号** に注目!! 図の①部分
→ 『ちくま学芸文庫〇(カタカナ)』と表示された場合は **カタカナ** に注目
本の背に下の図のようなラベルが貼ってあります。
*文庫架にはカタカナの**50音順**に並んでいます

異人論序説
イジロン ジョセツ
赤坂憲雄著
東京：筑摩書房，1992.8
Amazon.co.jpで詳細を見る

本の背
拡大図

081	T	ア
-----	---	---

ブックマーク

● 所蔵:

巻号	予約人数	所在	請求記号	資料ID	資料種別
1 ちくま学芸文庫ア	0	2F文庫	081/T/ア	100037732	文庫本

巻号ブックマーク

- 刊年 : 1992
- 形態 : 335, 22p; 15cm
- シリーズ名: ちくま学芸文庫

必ず『**文庫名 (カタカナ)**』をメモしましょう。
文庫コーナーの配置地図を OPAC コーナーに貼っているの、確認しましょう。

“実習があって、調べ物ができない!”

“図書を使いたいの、図書館が閉まっている!”

“就職活動が忙しくて図書館に寄れないけど、就職関係の図書が読みたい!”

そんなときに便利なのが、e-Book(電子書籍)です。

本学図書館には、約530点を超えるe-book(電子書籍)があります。リモートアクセス登録をすれば、家や通学途中でも、読むことができます。

今回はその中から、就職に役立つe-book(電子書籍)をご案内します。

電子書籍にアクセスしてみましょう!

図書館HP→MENU→e-book(電子書籍)をクリック

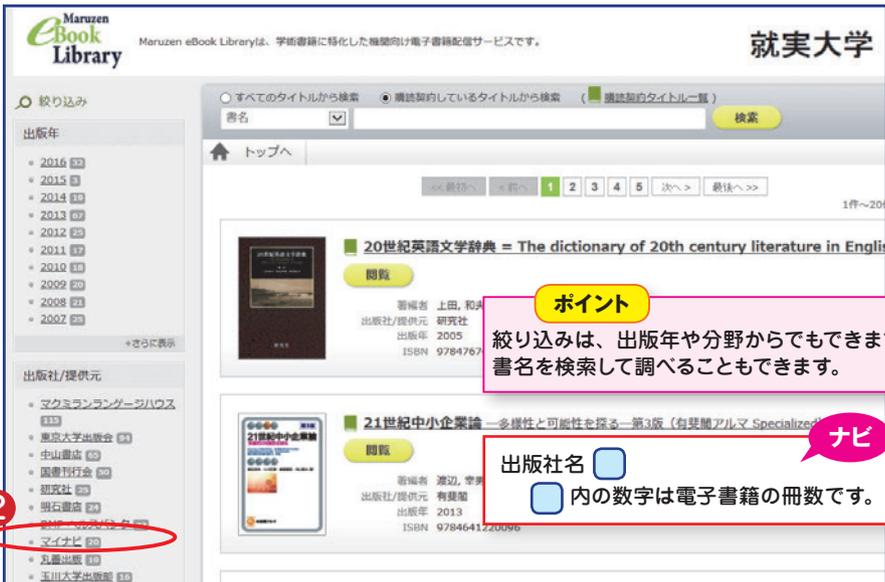
1 Maruzen e-book Library をクリックしよう!



ポイント

Maruzen e-book Library は、リモートアクセス登録をすれば、家や通学途中でも、読むことができます。リモートアクセスの登録方法は館内にパンフレットを置いてあります

2 出版社で絞り込んでみましょう! マイナビを選択!



ポイント

絞り込みは、出版年や分野からでもできます。書名を検索して調べることもできます。

ナビ

出版社名
 内の数字は電子書籍の冊数です。

図書館のお仕事を
体験してみませんか？

図書館サポーター募集中！

主な仕事： 図書館行事の補助（図書館セミナースタッフ）
図書館グッズの作成（貸出袋、しおり、ブックカバーなど）
POPの作成、館内掲示物の作成
利用案内補助
ブックハンティング …等々

絵を描くことが好き、本が好き、図書館の仕事を体験してみたい、図書館でこんなことができればいいな…。興味のあるかたは、お気軽に図書館スタッフへお声かけください！

図書館と コラボ しませんか？

図書館のスペースを使って、作品の展示やイベントを開催しませんか？
例えば、絵や写真を飾ったり、絵本の読み聞かせ会を行ったり、学生参加型のゲームをしたり…。
アイデアのあるかたは、お気軽にカウンター職員へお声かけください。

美術部との
コラボ



学生有志グループ
SSGとのコラボ

開催予告

平成29年度
ブックハンティング春と秋に開催します！

実施時期：【春】5月中旬から6月上旬

【秋】11月中旬から12月上旬

場 所：丸善 岡山シンフォニービル店、紀伊國屋書店 クレド岡山店

告知方法：ポスターやHPにて募集します。

好きな本を選んでみたい！就活に必要な本がほしい！卒論に必要な本がない！
と思っている学生の皆さん、どうぞご参加ください。

共翔 第24号

編集・発行
就実大学・就実短期大学図書館

平成29年2月20日発行

〒703-8258 岡山市中区西川原1-5-22 TEL(086)271-8134 FAX(086)271-8275
ホームページ <http://www.shujitsu.ac.jp/category/toshokan>

※館報の題字は押谷善一郎名誉教授の書によるものです。